

中津川市の目指す姿と方針

よりよいひとりだち

生活・学習における基礎基本の習得とたくましい子の育成

学校の教育目標

かがやけ坂本の子

～かしこく・やさしく・たくましく～

求める学校の姿

かがやきキラリあふれる学校

児童の成長を支える職員の「チームワーク・フットワーク・ネットワーク・ハートワーク」

重点

○安心・安全

- ・生徒と職員の「命と健康」を一番に考える
- ・コロナ禍を忘れない
- ・「命の教育」の推進
- ・教育相談の充実
- 学校が楽しいと感じる児童の割合を高める
88%（児童アンケート）

○学ぶ意欲

- ・主体的、対話的で深い学びのある授業
- ・授業でのかがやきキラリをつくり認める
- ・ICT教育の推進
- 授業が「わかる」と感じる児童の割合を高める
92%（児童ア）

○自治の力

- ・自分達で出来ることを増やし、自分で出来る子を育てる
- ・三つの宝を児童会の力で高める
- 進んで挨拶・掃除ができる児童の割合を高める
84%・96%（児童ア）

○連携

- ・児童の成長につながる連携を進める
- ・保護者との連携、地域との連携、幼保中高、関係機関と連携
- 願いを共有し、自主的に活動できる地域の方を増やす（地域ボラア）

□学校経営の指標 6月、11月、2月 を比較

基盤となる学校の構え

- 授業・給食・掃除・行事等、すべての学校生活の中で児童のよさを仕組み、見つけ、認め、伸ばす
 - ・「輝くのは児童、輝かせるのは職員」、職員が誉める達人となり児童に自信をもたせる児童のよさを伸ばし可能性を引き出す「かがやきキラリ」
- 児童のSOSに対しては、その日のうちに100%対応する
 - ・「まずは児童の話を聞く」「欠席は児童のSOS」「一番遠くにいる児童を大切に」
 - ・対応は個人ではなく組織で（報告・連絡・相談の習慣化、個別支援会議の活用）
- コロナ禍の3年間を忘れない
 - ・日常が戻ってくる中でも、コロナ禍で大切にしてきた「たくましさやさしさのある児童」を育てる 「一番悲しい思いをしている子の気持ちを考えて行動できる坂本の子」
- 算数の授業づくりで積み上げ研究発表会で発表したことを、他の教科にも広げる
 - ・専門教科での「主体的な学び・対話的な学び・深い学び」とは 「かしこく学ぶ坂本の子」
 - ・可能な範囲で専門教科の学年横持ちを進める
- 気持ちが伝わる仕事をする（ハートワーク）
 - ・「目の前の児童に」、「保護者に」、「地域の方に」、まずは「職員同士から」
- 家庭、地域と一緒にあって児童の成長を支えるコミュニティ・スクールをつくる
 - ・地域や家庭と一緒にあって「挨拶日本一の坂本小」を目指し、「子どもと一緒に成長」する
- ねらいと活動を明確にした5期ごとのPDCAを推進する
 - ・願いと見通しのある提案、核となる行事と明確な取組、反省をすぐに改善
- 「働き方改革」を進め、自分自身と家族の時間をつくる
 - ・現在の教職員の心身の健康と将来の教職員の人材確保、「仕事より健康や家庭が大事」

実態

児童

- 素直で明るく、やることがはっきりしていれば素晴らしい力を発揮する
- 地域の方のあいさつ運動に感謝できる児童が育ってきている
- △自分のよさに自信が持てない児童がいる

保護者・地域

- あいさつ運動に協力してもらえる素敵な地域の方がみえる
- △リニア等の工事が進み、地域の景観が大きく変わり、通学路等も変更されつつある
- △子どもを支える力が弱い家庭がある

職員の姿

- 様々な職員がお互いに学び合える雰囲気がある
- 児童に寄り添いよさを認め伸ばそうとしている
- 組織として動き、迅速な対応ができる
- △働き方改革が課題である